

自治協会長会議で整理したコロナ禍における課題に関する情報共有について(北区自治協議会 意見交換結果) (案)

※網掛け部分は会長会議における意見

1. 【意見交換】自治協提案事業のあり方について

新型コロナの影響により今年度事業が実施できていないが、年度後半での実施の可能性及び来年度以降の「with コロナ」時代に対応した自治協提案事業のあり方について検討する。

①: R2 事業の年度後半での実施の可能性(実施形態の変更内容など)

今年度予定していた三つの事業のうちの一つ、福島潟の魅力を発信する事業は、当初予定していたイベントの実施をやめ、動画の制作、配信に切り替えた。ほか二つの事業は、印刷物の制作、配布を手段としているため影響ない。

②: ①を自治協の部会等で検討する際に重視したポイント(実施形態の変更など)と「with コロナ」時代に対応した自治協提案事業のあり方について

ポイント
With コロナ時代に即した手段の変更はあっても、目的は変更せずに達するよう実施すること。
あり方
ア. 人との関わりの分断が余儀なくされ、交流が否定されていると感じる。人と人をつなげ、みんなが元気になれるような事業を実施したい。
イ. 日々変化する状況に合わせた、感染拡大防止対策を取り入れられるよう実施方法を工夫していくべき。
ウ. 2年の任期で企画が難しい。この機会に再度自治協提案事業の必要性を検討してはどうか。

2. 【情報共有】防災強化に向けた、課題や取組みについて

台風シーズンを迎えるが、新型コロナにより各地域の縦・横のつながりが分断されている状況下で自治協の人と人をつなげ、地域と行政、各種団体等を結び役割は大きいと考えられる。
有事に備え、防災強化(防災士等の人材育成、防災士の活用策、各自治会等での防災訓練の状況、区民の意識の啓発、各団体の取組みのサポートなど)について自治協としてどのように考えるか。

①: 住民による避難所運営にあたっての課題など、コロナ禍における防災に関する課題

ア. 従来の一室に会しての防災訓練は難しくなった。
イ. 感染症対策として、避難所にこだわらない安全な場所への避難が多くなり、自助、近助、共助が重要となっていくだろう。
ウ. 新しい生活様式に沿った最新の災害対策情報を防災訓練以外で、情報格差を起さずに周知していく必要がある。
エ. 避難行動要支援者と住民の見守り方のあり方について検討が必要だ。

②: ①の課題に対し、改善または強化につながる取組みの可能性(自治協として取組めそうな点も含む。)

ア. 避難所に集まる以外に、地区の班ごとなどの小さな単位で各家庭の避難計画を話し合い、互いに承知する機会を作るよう働きかけたい。
イ. 地域のリーダーを育成するとともに、顔の見える関係づくりを意識したハザードマップ勉強会などで防災意識を高めてもらう。
ウ. 動画などの映像配信、テレビ、ラジオなどのメディア、チラシなどを使った啓発を行っていく。
エ. 地域に即した災害時に対応できる方法を検討、実施していく必要がある。

3. 【情報共有・意見交換】会議の開催方法、それによる新たな体制・運営の確立について

会議をオンライン開催し、リモート出席を可能とすることはできないか(機運の視点も含む)。
あるいは、検討を行う中で、新型コロナの感染拡大を防止するだけでなく、会議の見直しにつながることはないか。

①: 選出母体や活動・勤務している団体等におけるオンラインの活用事例、その他活用事例に関する情報共有

【例】開催形式(個人宅/公共施設等の中継場所など)、機器の調達(個人で所有しているもの/レンタルなど)、オンライン会議の運営(進行等の勉強)

事例	開催形式	機器の調達	運営など
オンライン飲み会	個人宅及び公共施設	個人で所有(LINEビデオ通話)	早通健康福祉会館運営委員会が講師を育成 講師が各地域で参加者に指導
オンライン講義	大学及び個人宅	個人及び団体で所有	大学

②: ①を参考に、区自治協議会をオンライン開催する場合の課題と、それをクリアする方法

課題
必要な機器、環境の整備が難しい。
中身のある白熱した議論ができるとは思えない。
クリア方法
豊栄地区と北地区の2会場でオンライン会議を行う。
全員でなくても個人でのリモート参加などの分散も可能。

<項目1~3に関するその他意見>

2について
今できる防災対策(自宅の耐震化、家具の配置工夫・転倒防止対策、備蓄物資の確認、非常持ち出し品の準備等)
防災強化について市職員の徹底的な勉強を要望する。
委員から提案を募集し、会議の議題とし検討する。
3について
感染防止策を徹底したうえで、対面で実施できるのであれば現行で問題ない。会議ができないなら書面開催としていただきたい。